

まちの資源・強み・ポテンシャル、プロモーション

市の中心がどこかわからない。

市のシンボルがわからない
シンボルをつくるといい

11万人/日の乗降客数を抱える駅であることはポテンシャル。しかし、現状はほとんどが乗り換え利用である。

県内で、国内で「大和といえば○○」といえるものがあるといよい。

乗換駅としてしか認識されていないのでは。プロムナードを活用するなどして、特徴づくりを考えたい。

登戸駅もかつては乗換駅であったが、近年変わりつつある。

大和駅に行けば何かやっている、というような感覚がほしい。
戸越銀座商店街は、特別何か有名なものがあるわけではないが、そこに行けば何かあるという感じがある。

具体的な資源

ポテンシャル

大和市は人口増加率全国第8位

大和駅周辺は、15分圏域に生活利便施設が全て集まっている

アクセスが良い。

昔は人間臭さがあった。

市の職員をはじめ、まちの歴史を知らない人が多い。

昔と比べると住みやすいまちになった

シリウス、泉の森、やまと公園といった良い場所があるのに知られていない。

焼鳥屋、焼肉屋が多いと感じる。これを大和駅周辺の特徴としてアピールするべきかもしれない。

やっぱりシリウスはすごい。日本でも有数の図書館であると感じる。

やまと公園など大きい公園がある

盆踊りや盆ダンサーなどがある。

厚木基地が近くにあることをもっとアピールできないか

女子サッカーにゆかりがあり、横浜F・マリノスのホームタウンでもある。

まちなかの空間

日常的に歩きたくなるまちなかになるとよい。

まちなかに憩いの場がない。

木陰を増やすなど、日常における住み心地を良くしたい。

駅に車寄せがないのが困る。

買い物の時、休めたりおしゃべりできる場所がなくなってしまった。

近年の猛暑に対応する必要がある。
涼める場所が必要。

プロムナード

プロムナードはいい空間である。

プロムナードは大きな特徴だが、どう活用すべきか考えたい。

なでしこの道（西側）

プロムナード西側の水路が止まっていて、水がよどんでいる。

プロムナード西側は両側に道路があるが、歩道が狭い。

西側のプロムナードが活用されていない。今後どう活かしていくべきかを考える必要がある。

図書館の道（東側）

30年経ってもプロムナード側に建物が向かない。かんざし通りも実現していない。

プロムナードにはかつて花壇や椅子があったが、それも好評であったにも関わらず撤去してしまった。

過去にはプロムナードにベンチがある時期もあったが、使われ方のマナーが悪くて撤去してもらった。

図書館の道に日影がなく、暑い。緑があるとよい。

「かんざし道路」とする構想があったが、実現していない。

まちの回遊性やアクセス

大和市は子育て王国であるにもかかわらず、歩道は狭くベビーカーだと通行しづらい。

魅力ある場所をつないでいけるといい。

シリウスからヨコ（＝脇の通り）に行くことがないので、改善したい。

駅からやまと公園への道を歩きやすくできないか。

駅からやまと公園までの道路を歩きやすく、公園へ誘導できるように工夫できるとよい。

若者・子育て

子育て世代にやさしい要因たくさんあるので、それを活かさないわけにはいかないのでは。

若い人が遊べる場所があるとよいのではないか。

子どもが遊べる場や、参加できるまちづくりを進められると良い。

シリウスには夕方になると多くの学生が集まる。

商業環境・商店街の活性化

まちの活気と店舗の課題

古くて閉店したままになっている店舗が多い。

古くから住んでいるが、飲み屋が増え、賑わいが減っているのが悲しい。

三井住友銀行が無くなったのは、地域にとってカルチャーショックな出来事であった。

それぞれの商店街の特性を活かして、周辺の機会を最大限活かすハブのような役割をもった場所になるといい。

ファミリー向けのお店が少ない。

子育て世代にとって、子どもを連れての買い物は大変であるため、車で移動することが多い。その結果、大和駅周辺ではなく、車でアクセスしやすいオークシティを利用する傾向がある。

まちのイメージ

昔と比べるときれいになったと感じる。

歩きたばこの煙や喫煙場所での煙で迷惑している。

“悪いまち”になってしまった印象。（アーケードが無くなった、ネオンが消えた、物販店の減少など）

夜のイメージ

夜のイメージ改善ができるとよい。

夜市の取組として、過去には「大和のドン」というイベントを行ったこともあった。

夜のまちの治安を改善できないか。ナイトマーケットにより治安が向上し、誰もが楽しめるまちになるとよい。

夜の治安は少し問題があり、子どもを連れて出歩くには不安である。

“夜のまち”嫌いではない。商工会飲食業部会や商店会では、やまとのドンやちょい飲み企画などをやってきたことがあるが、持続性に課題がある。

客引きがいると若い人が避けるようになっている。

飲食店

大和駅周辺は、カフェや食事できる場所も少なく、歩きたくなる場所がない。“歩きたくなるまち”にしないといけない。

昼間に開いている店が少ない。

焼鳥屋、飲み屋が多い。

家族で食事できる店が増えてほしい。

飲み屋はあるが、多人数で取引先と行くようなきちんとしたお店がない。結局、横浜や厚木に出てしまう。

集客とイベントの開催

単発的なイベントを商店街で行っても、実際にお金を落とすのは露店の方なので、商店街にメリットがない。

プロムナードや広場でイベントをするときの資機材をしまう場所がない。平塚駅前のスターモールのように、倉庫がほしい。

イベントは現状でも多くの集客がある。

毎月第三土曜日に開催される骨董市。雨でも開催される。

骨董市やフリーマーケットなど、定期的なイベントが今でも開催されている。

外から来てもらえるためには、イベント以外のにぎわいが必要。

瀬谷の園芸博覧会が、多くのお客さんが訪れるきっかけになる。

花博をどう考えていくか。

東南アジア系の方が主体となって、ワールドフェスタを開催したこともあった。

阿波踊りでは毎年、かなりの集客がある。

天満宮のみこしもある。天満宮の祭りの際は、イベント自体より出店の方に多くの集客があった。

その他

まちの方向性

大和駅周辺に何の目的をもって訪れるのか。ターゲットを考えていく必要がある。

市全体の取組に並行して、大和駅としてできることがあるといい。

市役所が大和駅から離れているなど、コンパクトシティとは言えない。市役所の移転も考えられないか。

過去にこのような検討を積み重ねてきたが、検討するだけで終わることが多々あった。検討が反映されないのであれば「なぜダメだったのか」を教えてほしい。

プレイヤー

まちの特徴をどう活かしながら、プラスアルファで何に取り組むかが、にぎわいづくりには重要である。行政や市民、事業者のそれぞれが役割を持って動いていくといい。

青年会議所とは事業の連携を進めていく点で協力できることがあるといい。

自治会によっても温度差がある。

今あるリソースをどう活かしていくのか。関心テーマも多岐にわたるため、エリプラにおいて今後どのように検討の幅やテーマの扱い方を整理していくかが課題である。

一部の地域では、自治会（子ども会）に加入していないと集団登校に参加できない。一方で、自治会に加入すると役員の負担などがあり、若い世代にとっては参加へのハードルが高く、前向きに加入しづらい事情がある。